

Q5

今回の地震、津波の特徴は？

精度の高い即時的津波予測が難しい地震でした。気象庁での対応であるため詳細はわかりませんが、地震の規模が大きいうちに修正され、さらに観測値が注意報レベルを超えたため、宮城県でも津波警報が発令されました。また、仙台港では、湾地形の効果で反射波などの複雑な影響があり、津波の第二波が増大したと考えられます。地震の観測情報から即時的に推定される津波予報では、こうした地形特性のために複雑に増大する津波を予想することが難しく、観測を受けての警報への引き上げは必要であり、以前にもありました。

(災害リスク研究部門 今村文彦教授)

海底下で起きた活断層型の大地震だということです。11月13日に津波を引き起こしたニュージーランドの地震(M7.8)も活断層型の地震でしたが、震源となった断層は陸から海域に延びていました。東北沖地震のような巨大海溝型地震でなくても沿岸海域に活断層があれば(延びていれば)津波が発生するという事です。現在各自治体で津波被害想定や防災対策が進められていますが、できるだけそういった沿岸域の活断層を見つけて、あらかじめ多様な地震のタイプを想定しておくことが重要だと思います。

(災害理学研究部門 遠田晋次教授)